

群馬クレインサンダーズ

昨年7月、太田市にホームタウンを移転した、プロバスケットボールチーム、群馬クレインサンダーズ。地元への感謝と今シーズンへの決意を取材した。

新B1参入を見据え ホームを太田市に移転

2011年9月に誕生した群馬クレインサンダーズ。2020-21シーズンにおいてB2(ブリーグ2部)の史上最高勝率達成と、ホーム戦全勝という前人未到の快挙を遂げ、B1(ブリーグ1部)昇格を果たした。

B1昇格を見据え、2020年夏頃から水面下で進行していたのが、ホームタウンの移転だ。その背景にあるのは、Bリーグが2026年秋から計画している将来構想である。

「収容人数5千人以上の基準を満たす夢のアリーナ」「1試合平均4千人以上の入場者数」

「年間売上高12億円以上」という

新B1の参入条件を満たすため、チームを運営する株式会社群馬ヨンは、ホームタウンの移転を検討。こうしたなか、浮上したのが、

スポーツを軸にしたまちづくりを掲げ、新アリーナの建設予定を進めていた、太田市への移転だ。

2021年2月、チームのホームタウン移転がBリーグ理事会にて決議。それに伴いチームは、新アリーナの完成を待たずして

太田市への早期移転を決めた。地元の市民と共に盛り上げを醸成することが、新アリーナを満員にする近道だと考えたからだ。

同年5月、B2プレーオフを制したチームは、B1に昇格。7月

市に移し、新たな

目標に向けて始動

した。

「COME ON!『前人未踏』第2章、始まる」

をスローガンに掲げ、2021-22開幕節に臨んだチ

ームは、前シーズン準優勝の宇都宮ブレックス相手に2連勝

30敗の東地区7位で昨シーズンを終えた。

一方、選手たちを迎えた地元の太田市では、チームを応援するためにさまざまなムーブメントが起る。その代表的な催しが、ホーム戦に合わせて太田市運動公園で開催されるOTAマルシェだ。キッチンカーなどが出店するイベントを機に、試合会場へ足を運ぶ人も増加している。

「地元の皆さんのお援が、僕たちの力になっています」と、今期の主将を務める野本建吾選手は笑顔を見せる。人々の思いに応えるため、今シーズンは優勝を目指したいと決意を明かしてくれた。

「バスケットボールが皆さんの笑顔を見せる。人々の思いに応えるため、今シーズンは優勝を目指したい」と決意を明かしてくれた。

「バスケットボールが皆さんの笑顔を見せる。人々の思いに応えるため、今シーズンは優勝を目指したい」と決意を明かしてくれた。

「バスケットボールが皆さんの笑顔を見せる。人々の思いに応えるため、今シーズンは優勝を目指したい」と決意を明かしてくれた。

「バスケットボールが皆さんの笑顔を見せる。人々の思いに応えるため、今シーズンは優勝を目指したい」と決意を明かしてくれた。

「昨シーズンは悔しい結果に終わった」と菅原暉選手は振り返る。しかし、仲間と共にさまざまな問題を乗り越えてきたからこそ、今後の課題が見えたと前を向く。

「昨シーズンは悔しい結果に終わった」と菅原暉選手は振り返る。しかし、仲間と共にさまざまな問題を乗り越えてきたからこそ、今後の課題が見えたと前を向く。

琉球ゴールデンキングスから

猛暑が続くシーズンオフのある日、太田市内のグラウンドに足を運ぶと、黙々とトレーニングに励む選手たちの姿があった。

「今年は初めて芝生上でトレーニングを取り入れました」と説明してくれたのは、今年6月に就任した水野宏太ヘッドコーチだ。

シーズン開幕に向けて体に負担をかけずに動きの質を上げるために、練習メニューも新たな挑戦を取り入れているのだと言ず。

水野ヘッドコーチの補佐役として選手たちの士気を鼓舞するのは、カイル・ベイリー・アシstantコーチである。「チームを強くするため、さまざまなことを改善し、全員がしっかりと互いを理解して新しいシーズンに臨みたい」と語る。

「昨シーズンは悔しい結果に終わったものの、良い経験ができるとした」と菅原暉選手は振り返る。しかし、仲間と共にさまざまな問題を乗り越えてきたからこそ、今後の課題が見えたと前を向く。

琉球ゴールデンキングスから

アリーナの外でも盛り上がる 群馬クレインサンダーズの地元愛!!



カイル・ベイリー
アシstantコーチ

水野宏太
ヘッドコーチ

2022-23シーズン開幕!!

10/1土・2日

VS 滋賀レイクス

会場: 太田市運動公園市民体育館
群馬クレインサンダーズをアリーナで応援しよう!

詳しくはWEBへ!

